

令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 若松中央 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

教科に関する調査(国語, 算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

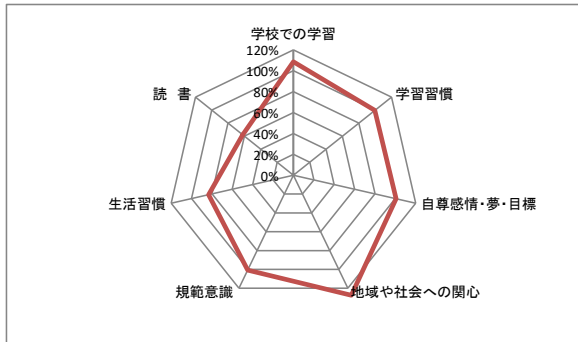
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	11.0	69
全国	9.1	65	11.2	70

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率を下回っていますが4領域のバランスがよく、大きく下回る領域はありません。記述式の問題についての正答率は低いです。しかし、無回答率は全国より低く、最後まで粘り強く問題を解こうとする態度が育っています。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	自分の主張が明確に伝わるように文章全体の構成や展開を考える事項の正答率が全国平均を上回っています。	
	努力が必要な問題	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約したり、漢字を文章の中で正しく使ったりすることに課題があります。	
算数	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率を下回っていますが、「図形」と「数と計算」の領域については全国平均正答率との開きが見られます。記述式の問題については無回答率が全国と同様に高くなっています。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	速さと道のりを基に、時間を求める式に表す問題、複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や加法性を基にとらえ、比べる問題については全国平均正答率を上回っています。	
	努力が必要な問題	図形領域、数と計算領域について、記述式で説明することに特に課題があります。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
○	自尊感情・夢・目標について肯定的な回答をした児童の割合が高く見られます。各教科で自尊感情を高めるような指導・道徳科での学習・キャリア教育等が成果を上げていると考えられます。
○	地域への関心も高く、今住んでいる地域の行事に参加している児童の割合が全国平均を上回っています。地域と学校が協力して児童を育てている成果が表れていると考えられます。
○	生活習慣については、家で自分で計画を立てて勉強している児童は多く見られますが、1日の学習時間については、全国平均を下回っています。起床や就寝時間等も全国平均より若干下回り、一日にゲームをする時間が一時間を超えている割合が高く見られます。就寝時間等に影響していることが考えられます。
○	読書の習慣が全国平均より低く、読書習慣の定着を図っていく必要があります。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○国語科では、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約したり、漢字を文章の中で正しく使ったりすることに課題が見られます。他の学習も含め、既習の漢字を文章の中で使うこと、目的に応じて必要な情報を整理し、まとめられるように指導していきます。
○算数科では、図形領域、数と計算領域に課題が見られます。授業改善を図るとともに、補充学習時間(計算タイム)等で個別に課題に取り組めるよう、学習プリントやICT等の活用工夫をしていきます。
○「何ができるか」「できることをどう使うか」を自覚できるように、引き続き、授業の最後に振り返りを必ず書くようにします。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○家庭学習・自主学習の取組が定着しつつあります。内容がよいノートやまとめ方が上手なノートを掲示し紹介することで、児童が今以上に意欲的に取り組んだり、自主学習の質を向上したりすることができるようにしていきます。一方、学級で差異が生じないように、学校全体で取り組んでいるという意識をもたせるようにします。
○挨拶・早寝早起き朝ご飯・読書の大切さや・規範意識の育成、スマートフォンの使用時間等を、今後も家庭や地域に啓発していきます。